



2-4 地域の復興・再生に向けて

東日本大震災の発災後、福島県にも、国内はもとより世界各地から多くの励ましや、たくさんの人的・物的支援が寄せられました。福島県では、地域の復興・再生に向けて、様々な取組が進められています。その中には、中学生や高校生が中心となっているものもあります。

ふたば未来学園の開設

原子力災害の影響で、一時は住民が避難した福島県双葉郡に、平成27年4月、ふたば未来学園高等学校が開校しました。

「原子力災害からの復興を果たすグローバル・リーダーの育成」を目指して、コミュニティ再生の実践や、風評払拭に向けた情報の発信等に生徒が主体的に取り組む授業が行われています。

平成31年4月には中学校も開校し、併設型中高一貫教育もスタートします。



海外研修として、米・ニューヨークの国連本部で、福島の課題のみならず難民問題等についても言及し、持続可能な福島県と世界の未来創造について提言している9名の2年次代表生徒（平成29年3月4日）。

18-1

ホープツーリズムの推進

東日本大震災による地震・津波被害や、原子力発電所の事故を経験した福島県だからこそ、学ぶことができる様々な体験があります。福島県は、復興に向け挑戦する人たちとの出会いや福島県のありのままの姿を実際に見て、聴いて、学んで、希望を見つけてもらう「ホープツーリズム」を推進しています。

今、教育旅行を中心に多くの人々が実際に福島県を訪れ、被災地の現場や震災を乗り越えてきた方々との対話から多くのことを学んでいます。



各分野で復興に向け果敢にチャレンジしている人々との対話などを通して主体的・対話的で深い学びを実現しています。

18-2

福島・国際研究産業都市（イノベーション・コースト）構想

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、この地域の新たな産業基盤の構築を目指すものです。

廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野におけるプロジェクトの具体化を進めるとともに、産業集積や人材育成、交流人口の拡大等にも取り組んでいます。



ロボットの研究開発、実証試験などを行うことができる拠点です。

18-3

再生可能エネルギーによる地域の復興・再生

国は、福島県楢葉町の沖合約20kmに複数基の実証研究としては世界初となる大型の浮体式洋上風力発電施設を設置しました。風車の設置場所の新たな可能性を拓く沖合での風力発電について、国産の高度な技術を結集して、魚類の生態系などにも配慮しつつ、事業を実施しており、再生可能エネルギーを活用した地域の復興が期待されています。

このほか、産業技術総合研究所は、福島県郡山市に「福島再生可能エネルギー研究所」を設立し、太陽光、風力、地熱・地中熱、水素などを研究テーマに、国内外の機関と共同で再生可能エネルギーの研究開発を進めています。



浮体式洋上風力発電実証研究事業（経済産業省提供）

18-4

環境創造センター交流棟「コミュタン福島」の開設

福島県三春町にあるコミュタン福島（入館無料）では、体験型の展示をとおして、放射線や原子力発電所事故からの復興のあゆみと「いま」を分かりやすく学ぶことができます。

全国の児童生徒が教育旅行として福島県を訪れており、コミュタン福島も活用されています。

室内展示（放射線ラボ）



環境創造シアター

世界でも珍しい360°の映像を体験できる「環境創造シアター」では、迫力ある映像で放射線と環境創造の展示を振り返ることができます。

18-5